

画像報告

エイズ症例に観察された外耳道炎の1例



耳鏡による外耳所見。糸状菌菌糸を観察できる。

症 例 56歳 女性。

主 訴：左側耳鳴と難聴。

経 過：1カ月の左側耳鳴と難聴を訴えて来院した。HIV感染を受診5カ月前に診断され、そのときのCD4リンパ球数が $16/\text{mm}^3$ であった。その後、再発性の口腔カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、サイトメガロウイルス腸炎、中枢神経系非ホジキンリンパ腫に罹患し、それぞれ治療を受けていた。抗レトロウイルス療法 (antiretroviral treatment, ART) などが開始され、外来で加療されていた。受診直近のCD4リンパ球は $20/\text{mm}^3$ であった。受診時、患者の全身状態はよかった。耳鏡にて写真のような病像を得た。

診断および解説：エイズ患者における *Aspergillus terreus* による外耳道炎。

外耳道に真菌性菌糸を認め、培養の結果 *Aspergillus terreus* と同定された。点耳薬 (ビホナゾール・ク

リーム)にて治療され、程なく症状は消失した。その後のCTにて乳突蜂巣炎など周辺骨への浸潤を認めなかった。

外耳道炎は主に緑膿菌やブドウ球菌が原因となる。真菌性外耳道炎は相対的には少なく、アスペルギルス属による外耳道炎のまれな原因とされる¹⁾。 *A. terreus* による外耳道炎はさらにまれで、糸状菌が原因となる外耳道炎の1.6%を占める²⁾。 *A. terreus* はアムホテリシンBに自然耐性を示すことで他の真菌と性格を異にするのが特徴である。HIV感染者においても外耳道炎は時に認められるが、細胞性免疫抑制を伴い悪性外耳道炎 (malignant otitis externa) として発症することもある³⁾。臨床症状と特徴的な耳鏡所見から比較的まれな糸状菌による外耳道炎を速やかに診断し、骨画像などから悪性外耳道炎を除外することが肝要である。

文 献

- 1) Roland PS, Stroman DW : Microbiology of acute otitis externa. *Laryngoscope* 112 : 1166-1177, 2002.
- 2) García-Agudo L, Aznar-Marín P, Galán-Sánchez F, García-Martos P, Marín-Casanova P, Rodríguez-Iglesias M : Otomycosis due to filamentous fungi. *Mycopathologia* 172 : 307-310, 2011.
- 3) Hern JD, Almeyda J, Thomas DM, Main J, Patel KS : Malignant otitis externa in HIV and AIDS. *J Laryngol Otol* 110 : 770-775, 1996.

著 者

岩田健太郎¹⁾, 谷本 均²⁾

¹⁾ 神戸大学病院感染症内科

²⁾ 神戸大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科

Kentaro IWATA¹⁾, Hitoshi TANIMOTO²⁾

¹⁾ Division of Infectious Diseases, Kobe University Hospital

²⁾ Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kobe University Hospital

Otitis Externa Caused by *Aspergillus terreus* in an AIDS Patient

キーワード : 外耳道炎, エイズ, *Aspergillus terreus*

Key words : otitis externa, AIDS, *Aspergillus terreus*